

研究指定校名 : 米子市立車尾小学校

1. 学校の概要

学校名	米子市立車尾小学校
学級数	20学級（うち特別支援学級：3学級）
児童生徒数	全校児童数：476人（令和2年1月1日現在）
URL	http://www.torikyo.ed.jp/kuzumo-e/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

【中学校区研究主題】

一人ひとりを大切にし、互いに認め合い、高め合う子どもの育成
～保・幼・小・中の一貫した人権・同和教育の実践を通して～

【本校研究主題】

みんなで輝く 学びが輝く 車尾っ子
～かかわり合うことで考えが深められる学習活動を目指して～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

東山中学校区では、人権教育に関する共通主題を「一人ひとりを大切にし、互いに認め合い、高め合う子どもの育成 ～保・幼・小・中の一貫した人権・同和教育の実践を通して～」とし、就学前教育、小学校教育、中学校教育のめざす子どもの姿を示し、各学校・園・所でどのように力をつけていくかを共通理解してきた。また、平成30年度に「東山中学校区人権・同和教育推進協議会」において、これまでの15年プランの見直しを行い、「基本的な生活習慣の確立」「コミュニケーション能力の育成」「人権感覚の育成」「自尊感情の育成」を柱に、家庭、地域、学校、園・所が一体となって校区の子どもたちを育てていくことを確認した。

本校では、平成26・27年度に「発達障がい理解推進拠点事業」の指定を受け、一人ひとりの自尊感情を高めることにより、他者理解が深まるであろうという仮説を立て、研究を進めた。26年度は「学び合い」を授業改革の重点課題とし、算数科を中心とした学び合う活動の充実を図り、問題解決的な学習の流れや学び合う姿の具現化についての研究に取り組んだ。27年度以降は、どの児童にとっても「学習の流れや学び方の見直しをもつこと」「仲間とともに、学びを共有すること」が大切であると考え、国語科におけるユニバーサルデザイン（UD）の視点を取り入れた授業づくりの研究に取り組んできた。研究の中で、「全員が授業に取り組む意欲をもてるようにするための手立て（全員参加のためのUD）」、「本時のねらい達成に向けて思考するための手立て（思考・理解のためのUD）」を取り入れた授業を行い、児童につけたい力を教師側が明確にもつことの大切さも再認識した。実践を積み重ねることによって、児童一人ひとりが自分で考えようとしたり、「わかった」という思いをもったりするようになった。また、互いを認め合い、学び合える関係づくりが基盤であると考え、友達や学級のよいところを見つけ、掲示して可視化するなどの環境整備にも努め、児童が互いに理解し合い認め合おうとする意識も高まってきた。

しかし、相手の意見や思いを受け止める力がまだ十分に育っておらず、話し合い活動は行っているが、順番に話して自分の考えを伝えるだけにとどまっている、内容に深まりが見られないといったことが課題となった。また、児童も多様になり、元気よくあいさつができなかったり、友達とうまくかかわり合うことができなかったりと、日常生活のソーシャルスキルやコミュニケーションスキルが身につけていないという実態も浮き彫りになってきた。そのため、児童が互いに意見を出し合いながら双方向にかかわり合い、自分の考えを深めていく力を育てる必要があると考えた。

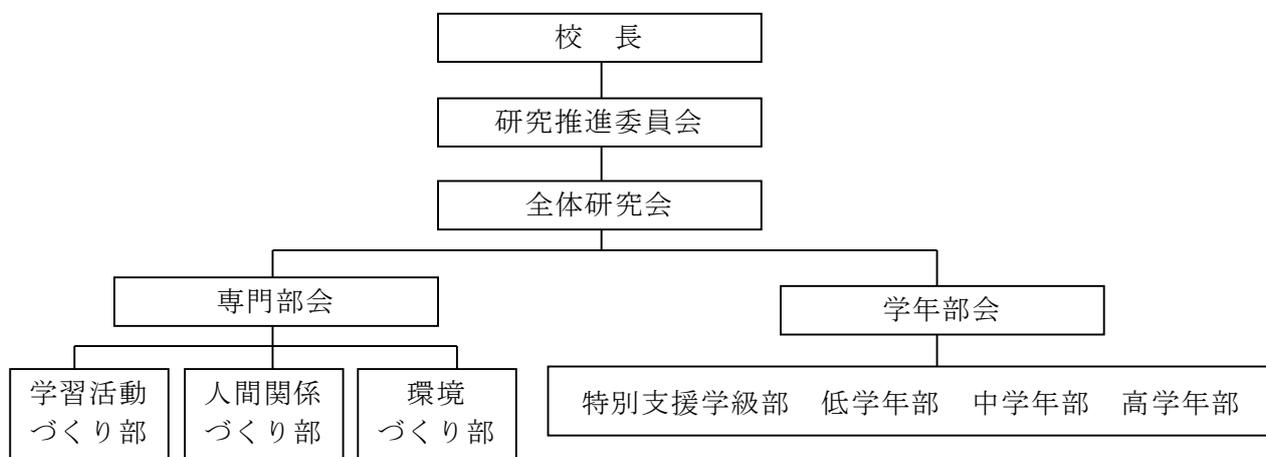
そこで、道徳を先導教科としながらも全教科・全領域を通して人権が尊重される授業づくりの研究に取り組んでいきたいと考えた。また、本校には通級指導教室があり、担任と連携

を密にとりながらソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいくことができ、多くの児童の社会性を高めてきた実績がある。その特別支援教育の面からも、児童一人ひとりのソーシャルスキルを高める研究をしていきたいと考えた。以上のことから、人間関係づくりと学習活動を相互に関連付けながら、人権尊重の視点に立った学校づくりをめざして研究を推進していきたいと考え、本主題を設定した。

(3) 取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	
②子供	○
③高齢者	○
④障害者	○
⑤同和問題	○
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	○
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等	○
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	
⑮その他（ ）	

3. 調査研究の推進体制



〈関係協力機関〉 ○鳥取県教育委員会 ○米子市教育委員会

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容等

(現状の分析と課題)

平成30年6月に実施したQ-U調査において、「自分の意見を発表するのは好きですか」という問いに対して、2割程度の児童が否定的な回答をした。各学級で安心して発言し合える土壌づくりや、自分の考えに自信をもたせる取組の必要性が感じられる。また、「クラスの中にあなたの気持ちをわかってくれる人がいますか」という問いに対しては、上学年では9割以上の児童が肯定的な回答をしたが、下学年では7割程度にとどまった。自分の気持ちをうまく言葉に表すのが難しい児童は少なくないといえる。こ

これらのことから、児童同士が対話によってかかわり合い、望ましい人間関係を築きながら学びを深めることが本校の重要な課題と考えられる。

(調査研究の内容)

【研究の仮説】

- 《仮説1》ユニバーサルデザインの授業づくりを通して、一人ひとりが自分の考えをもち、ねらいを明確にした学び合いを展開したならば、学習に主体的に取り組む児童が増え、学力が向上しすべての子どもたちの学力を保障することにつながるであろう。
- 《仮説2》生活の基盤を整えながら学級や異学年間でかかわり合う活動を取り入れ、ソーシャルスキルを高めていくことで、よりよい人間関係を築き、互いに認め合い、自己有用感を高めることができるだろう。
- 《仮説3》学級づくりや仲間づくりを進め、温かな学習環境を整えたならば、児童にとって居心地のよい安心して生活することができるだろう。そして、よりよい姿をめざしたり、自分の思いを表現したりする姿につながるだろう。

【調査研究の内容】

① 意識調査・実態調査

- ア 「児童アンケート」「保護者アンケート」を分析し、研究の評価を行う。
- イ Q-U調査の実施及び考察により、その結果を学級づくりの指導に活かす。
- ウ 全国学力・学習状況調査、鳥取県国語・算数診断テスト、西部地区小学校算数単元到達度評価問題等の結果から、学力の実態把握を行い、学習指導に活かす。

② 授業研究

- ア 道徳を中心として授業研究会を実施し、教育委員会等の指導助言により指導力の向上をめざす。
- イ 人権学習の指導内容について、各教科・領域のねらいに沿って見直しを図る。

③ 課題別の取組

- ア 学習活動づくり部
 - ・道徳の授業づくり
 - ・道徳ノートの使い方
 - ・道徳の評価(深い学び、変容の姿)
 - ・ユニバーサルデザインの授業づくり
 - ・コミュニケーション能力を育てる学習活動
- イ 人間関係づくり部
 - ・ソーシャルスキルトレーニング
 - ・系統性を意識した、コミュニケーションスキルのつきたい力の明確化
 - ・Q-U調査、児童アンケート、保護者アンケートの実施と分析
- ウ 環境づくり部
 - ・基本的生活習慣の定着と授業規律の確立
 - ・よいこと見つけやほめ言葉の視覚化等、教室環境の整備
 - ・学校行事や学年での取組等、校内掲示の充実
 - ・幼保小中、地域との交流

(実施方法)

【学習活動づくり】

- ユニバーサルデザイン(UD)の視点を取り入れた学習づくり
 - ・チェックリストを活用して、学校生活や学びの向上をめざした。
 - ・個に応じた支援や配慮の必要な児童も参加できる手立てに

UDふりかえりシート(教師用)		実施済	未実施	未定
学習環境				
I 場の確保化				
1	教室の幅については、フックや机を移動させていますか。			
2	机の向きや机の配置などについて検討されていますか。			
3	教室の照明は昼間の自然光と合わせて使われていますか。			
II 視覚的配慮				
4	教科書の読みやすさによって色が分けられているか確認されていますか。			
5	教科書の読みやすさを確保するために工夫されていますか。			
6	教科書の読みやすさを確保するために工夫されていますか。			
7	教科書や資料の読みやすさを確保するために工夫されていますか。			
8	教科書や資料の読みやすさを確保するために工夫されていますか。			
III 音声的配慮				
9	授業から学ぶための場について確認、学習者支援のシステムが整っていますか。			
10	学習者の学習の場について確認、授業、話し合いの場を確保、見守りや学習支援などを行っていますか。			
11	学習者の学習の場について確認、授業、話し合いの場を確保、見守りや学習支援などを行っていますか。			
IV 多様な学習者の学びの場				
12	一人ひとりの学習について確認し、本人に合った学習方法を探っていますか。			
13	一人ひとりの学習について確認し、本人に合った学習方法を探っていますか。			
V 情報の確保化				
14	授業の場について確認し、本人に合った学習方法を探っていますか。			
15	授業の場について確認し、本人に合った学習方法を探っていますか。			
16	授業の場について確認し、本人に合った学習方法を探っていますか。			
VI 学習者の学び				
17	教科書・学習資料の読みやすさを確保するために工夫されていますか。			

ついて共通理解をして実践した。

○対話の入れ方の共通理解

- ・話合いの目的を明確にして、ペア対話やグループ対話を積極的に取り入れた。

○「考え、議論する」道徳の授業づくり

- ・学びを通して思考の深まりが見取れる授業の構成を考えた。
- ・最初と最後で考えの変容が見とれるように構造的な板書を心がけた。
- ・各学年で発達段階に応じた道徳ノートの基準を相談し、6年間を通してどのような姿をめざすのかを共通理解した上で系統的なノートづくりを実践した。

○算数の授業づくり

- ・問題提示から振り返りまでの学習展開を全教職員で共通理解し、児童がより深く学び、新たな考えを発見できる問題解決的な授業づくりに努めた。
- ・一人ひとりの学びの足跡が残るノート作りに努めた。

【人間関係づくり】

○ソーシャルスキルトレーニング（SST）の実施

- ・児童一人ひとりの社会性や、コミュニケーションスキルを身につけていく場がより必要だと考え、学級で行うSSTに取り組んだ。
- ・各学級の児童のソーシャルスキルの実態を『集団行動・セルフコントロールスキル・仲間関係スキル・コミュニケーションスキル』の4つの項目から構成された「ソーシャルスキル尺度」を用いて検討し、それを元に各学級の実態に即したSSTを行うことができるよう計画をたてた。

【環境づくり】

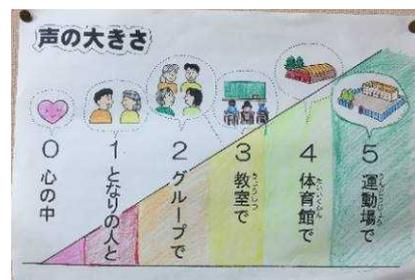
○子どもたちが安心して過ごせる学校環境・教室環境づくり

- ・落ち着いて学習する環境を第一に考え、教室前面は極力掲示しないよう共通理解した。また、学習コーナーや学級会コーナー、係活動コーナーを設置した。「声の大きさ」「学級会グッズ」は全学級で統一したものを使用し、各学年で力を積み上げ、学級会だけでなく、委員会活動や学年集会、代表委員会での話合いなどに生かすことができるようにした。

○人間関係の充実と自尊感情を高める環境づくり

- ・「子どもしあわせプロジェクト」と題し、席替えや行事の後に友達のいいところみつけをする時間を設けた。月ごとに行事や子どもたちの成長を視覚的に残る掲示にすることで、自分達の成長や頑張りを振り返ることができるようにした。委員会活動の取組の「ありがとうメッセージ」では、異学年への感謝の思いを伝える機会とした。また、PTAとも連携し、運動会、学習発表会の後に感想コーナーを設置したり、年度末に「ありがとうメッセージ」を子どもから保護者へ、保護者から子どもへと相互に送りあったりする活動を行った。

対話の入れ方の共通理解	
目的を明確にして対話を取り入れる（話合いの目的 7つ）	
教え合い	おしえあおう
情報交換	じょうほうこうかんしよう
合意形成のため	いつにきめよう
同様の考えの共有	おなじところをみつけよう
異なる考えの対立	ちがうところをみつけよう
理解を確実にものに する	せつめいしてみよう (はらふいろ、おんがいはむかひむか)

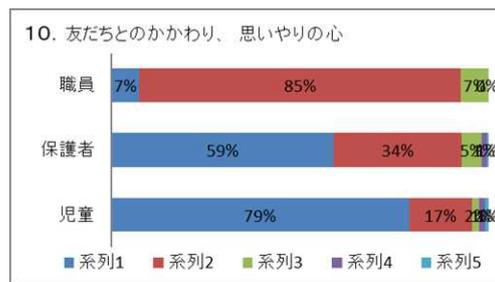
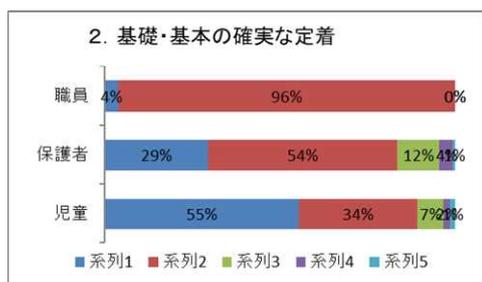


(検証・評価・普及)

- Q-U調査における学校生活満足群の児童が、1回目の結果より2回目の結果が、全体的に4ポイント程度高くなった。また、いじめアンケートでは90パーセント以上が「学校は楽しい」と回答している。このことから、より安心して生活することができ、学級や学校生活に満足している児童が増えつつあるといえる。

- 保護者へのアンケートにおいて、「学習を楽しみと思い、学んだことがわかってきましたか。」という設問に対する肯定的な回答（系列1・系列2）が83%あった。全ての教科・領域でねらいを明確にした学び合いを意識して授業に取り組むことで、児童が学習により主体的に取り組みつつある成果ではないかと考える。また、「友達と仲よく遊び、親切にしあう気持ちが育ってきましたか。」という設問に対する肯定的

な回答が93%あった。学習中のペアやグループでの対話や学び合い、また、SSTの実践を通して友達と豊かにかかわろうとする心が育ってきていると感じる。



- 児童の学力保障の取組を通して、アンケート等の結果から学習意欲の高まりはあるが、児童の学力が向上したかどうか、数値などで見取る機会を設定する必要がある。
- 現在、SSTは月に2回実施しているが、その時間の確保が難しく、行事との兼ね合いや担任以外の教員が担当している授業との関係で時間がとりづらいという実態がある。来年度以降、実施時間について検討し、継続していけるような工夫を考えていく。
- 第44回米子市中学校区人権教育研究発表会（11月29日）において、公開授業並びに分科会を行い、本校の取組を元に参加者との意見交流を行った。また、米子市人権・同和教育研究集会（1月23日）において実践発表を行い、研究の成果を発表し普及を図った。

(2) 実施結果

時 期	内 容	備 考
4月 4日	研究推進委員会（研究の方向・内容、研究組織の確立）	参加者7人
	校内全体研究会	参加者全教職員
24日	第1回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	参加者教頭
24日	校内全体授業研究会	参加者全教職員
	3年3組 道徳（授業実践・研究協議）	
	指導助言：景山信子 元福生東小学校校長	
5月10日	校内部会研究会（学習活動づくり部・人間関係づくり部・環境づくり部）	参加者全教職員
16日	校内全体授業研究会	参加者全教職員
	3年2組 算数（授業実践・研究協議）	
	指導助言：西部教育局 松田裕美子 指導主事	
20日	校内部会授業研究会	参加者中学年部
	4年3組 算数（授業実践・研究協議）	10人
	指導助言：西部教育局 松田裕美子 指導主事	
6月13日	校内部会授業研究会	参加者高学年部
	6年2組 算数（授業実践・研究協議）	9人
	指導助言：西部教育局 松田裕美子指導主事 米子市教育委員会学校教育課 西村健吾 課長	
14～15日	筑波大学附属小学校研究発表会参加	参加者1名
26日	校内全体授業研究会	参加者全教職員
	2年1組 道徳（授業実践・研究協議）	
	指導助言：景山信子 元福生東小学校校長	
27日	第1回Q-U調査の実施と分析	参加者全教職員
7月 3日	校内部会授業研究会	参加者低学年部
	1年2組 算数（授業実践・研究協議）	10人
	指導助言：西部教育局 松田裕美子 指導主事	

19日	鳥取県教育委員会人権教育課 本庄大志 指導主事 校内全体研究会 ・ 東山中学校区の取組について ・ 研究紀要と分科会の内容について	参加者全教職員
23日	校内全体研究会 ・ 人権が尊重される授業づくりについて ・ 人権教育で育てたい資質・能力について 指導助言：鳥取県教育委員会人権教育課 本庄大志 指導主事 米子市教育委員会学校教育課 乗本学 課長補佐	参加者全教職員
31日	校内全体研究会 ・ ソーシャルスキルトレーニングについて検討 ・ 指導案、紀要について検討	参加者全教職員
8月16日 23日	研究推進委員会 校内全体研究会 ・ 指導案、紀要原稿検討 ・ 米子市中学校区人権教育研究発表会配布の資料作成	参加者7人 参加者全教職員
10月2日 16日	第2回Q-U調査の実施と分析 校内部会授業研究会 ひまわり学級 道徳（授業実践・研究協議） 指導助言：米子市教育委員会学校教育課 勝部百合 指導主事	参加者全教職員 参加者特別支援 教育部4人 参加者全教職員
21日	校内授業公開 3年3組 道徳（授業実践・研究協議） 指導助言：福米西小学校 井口恵美子 校長 校内全体研究会・部会研究会 ・ 掲示物等について	
23日	校内授業公開 5年2組 道徳（授業実践・研究協議） 指導助言：米子市教育委員会学校教育課 西村健吾 課長	参加者高学年部 8人
25～26日	第49回大阪府人権教育研究泉南大会参加	参加者1人
11月18日 29日	校内全体研究会 第44回米子市中学校区人権教育研究発表会開催 指導助言：西部教育局 松田裕美子 指導主事 鳥取県教育委員会人権教育課 本庄大志 指導主事	参加者全教職員 研究紀要配布 120部
12月3日	児童・保護者アンケートの実施・分析	対象：全校児童 ・保護者
1月15日	校内全体研究会・部会研究会 ・ 今年度の振り返り	参加者全教職員
23日	米子市人権・同和教育研究集会（実践発表）	参加者7人
2月10日	第2回「人権教育研究推進事業」連絡協議会 人権教育推進事業報告会	参加者2人
26日	研究推進委員会（次年度の研究計画） 研究のまとめ作成	参加者7人

(3) 人権教育に係る年間指導計画（別添資料）